

日本基督（きりすと）教団神戸栄光教会 下山手通4丁目



プロテスタント系の教会。神戸栄光教会は、1886（明治19）年に神戸にやって来たアメリカ南メソジスト教会の宣教師 J.W.ランバスが、居留地の47番地に教会を建てたことに始まる。その子 W.R.ランバス（若ランバス）も神戸にやって来て、現在の灘区に土地を購入し、1889（明治22）年に校舎を建てて、授業を開始した。これが現在の関西学院大学の前身である。その他、若ランバスは現在のパルモア学院を開設し、その夫人も現在の聖和女子大学を設立するなど、教育に残した功績は大きい。

さて、教会は1888（明治21）年に下山手通5丁目に新しい会堂を建て、その後、1922（大正11）年に現在地の下山手4丁目に十字架を頂上に据えた高さ約40mの四角い塔を擁する赤煉瓦（れんが）造の会堂を新築した。この会堂は第二次世界大戦の戦禍をのがれ、震災前までは兵庫県庁周辺のこの地域のランドマーク的な建造物の一つであった。

ところが、阪神・淡路大震災でこの赤煉瓦造の会堂は全壊、その後、ドーム型の仮設の会堂が建てられていた。そして、2004（平成16）年9月、もとの赤煉瓦造の外観を再現する形で、新しい会堂が再建されるに至ったのである。

場所：神戸市中央区下山手通4-16-1